ある人物の実験と生涯 (仮題)

Tony Lewis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ある人物の実験と生涯　（仮題）

【Ｎコード】
Ｎ３６６３Ｙ

【作者名】
Ｔｏｎｙ　Ｌｅｗｉｓ

【あらすじ】
　時代は平成に入り、世界が破滅することは無いものの良き政治家が少数しかいないため世の中は暗雲の時代をここ数年は漂っていた。そんな中、ひとりの人物がイギリスにおいて活動を開始した。その人物こそ、あとに知られる財閥の代表者となる人物である。
　この作品はとりあえず、前提条件が整った後から始まります。ですので、幼少期から企業後五年までは外伝などで掲載する予定です。
自身の経験に基づいて書いてますのでノンフィクションとフィクシ

ョンを混ぜてます。会社団体の評判などは複数の顧客のデータを元に再構成しましたので参考にして頂ければ幸いです。豆知識と公式略語が多々登場するかとは思いますが。

読んで頂ければ幸いです。　　※少々、チートとご都合主義も入るかもしれません。あと、ジャンル的にファンタジー・ＳＦ・学園と後になるほど多要素になる見込。

それでは、お楽しみ下さいませ。

ＳＮＳ関係は以下のＵＲＬからリンクして下さい。

ｈｔｔｐ：／／ｗｗｗ．ｓｌｏｒｄ－ｈｄ．ｃｏｍ／

０．０　謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介（前書き）

とりあえず、初めての執筆ですが出来るところまでがんばってみます。

０．０　謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介

謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介

皆様、お初にお目に掛かります方ははじめまして。

ＳＮＳなどからお越し下さった方は毎度有り難うございます。

本日も仕事大好き継続中でロンドン在住のＴｏｎｙ　Ｌｅｗｉｓと申します。

まぁ、日本名は公文書でしか使ってませんので呼ばれることも年に数回になっちゃいましたけどね。知り合いはみんなトニーさんって呼んでますんでそちらでなれて頂ければさいわいです。

今現在は、現地のＩＴ機器販売店の主任技術者・電気技師・日系不動産屋など相当幅広くやっておりまして結構引っ張りだこだったりします。まぁ、昔からロンドンはＩＴ技師の給与は日本より大分良いんですが最近は若者が増えてきましたので中級以上の人は高給取りという状況に変わりましたね。まぁ、私は個人的にＩＴ関係を主幹に据えたくない人なので、もう少ししたら一部得意な金融関係に切り替えるかもですけどね。

そんな近況話はとりあえず置いといて、この話の説明をば。

この作品は、基本的に私の経験に基づいたフィクションとノンフィクションを混ぜて記載しています。ですので、どこまでが真実でどこまでが本当か推理するのもある意味おもしろいかもしれないで

すね。

あと一つ前置きなんですが、私どうも感情がよく理解できない人でしてなんで情景描写と感情描写が壊滅的になってるのはご容赦くださいませ。何分、経験に基づく記憶でしか補完できないのでどうしても壊滅的になっちゃうんですよね。あと、感情の記憶と悪い思い出の記憶が勝手にどうも消えてってる節がありますんで描写が変になってたらすみません。言って頂ければ訂正しときますんでよろしくです。

それでは、長くなりましたが、私の作り出す世界を見物して頂ければと思います。

それでは、どうぞ~~!!

※このページはたまに更新されます。
※ちなみに、気まぐれで書いていきますので人気具合(??)に応じて投函間隔変わるかもですね。まぁ気まぐれで書いてますんでそこはご了承下さい。、

~~~~~~~~~~~~~~

◇登場人物紹介◇　※順不同

・正体不明の三人男性
~~~~~~~~~~~~~~

奥に座ってた人が部屋の主・二人は秘書的な存在。
長年の付き合いで中はとてもいい。

・Ｔｏｎｙさん（トニーさん）
仕事狂のロンドン在住日本人。
何か裏設定もあるようだが・・・。

・沼さん
トニーさんと十年来の親友である。
良く話すのは習慣と化している。

0.0　謝辞と某出版社風の登場人物などの紹介（後書き）

うぅ〜ん。本編登場まで登場人物かけないのはつらいねぇ。

０．１　Ｐｒｅｌｕｄｅ（前書き）

本編が始まる２５年ほど前のお話。

0.1 Prelude

とある夕暮れ時の一室で見るからに上等な着物を着た三人の男性（？）が白鷺紋の彫り込まれた特注品の執務机に向かい各々の雑事をこなしている。

ふと、部屋の一番奥に座っていた中性的な顔立ちをした人物が筆を置き、手元の懐中時計で時間を確認すると、左右前方に腰掛けた二人に話し始めた。

「今日も、もうそろそろ定時だねぇ。」

左前方の机に座っているコレと言って特徴のない普通の男性がおもむろに口を開き、

「だなぁ〜」

と気の抜けた返事を作業を続けたまま、つぶやくのであった。それを気にもとめず、最初に会話を始めた男性はそちらに顔を向けると会話を開始した。

「私も君らも明日から休暇だけど何か予定は結局決まったかい？」

左前方の男は顎に手をやり、しばし考えた後にこう問い返した。

「そっちは、なんか決めたんか？」

そういうだろうと思っていたと思しき微笑みを漏らした後に男はこう答えた。

「久々に下に行ってみようかと思う。」

すると、今まで黙っていた右前方に座る顔立ちの整った男性がため息を漏らしながらあきれたように筆記具を机のペン差しに立てるとこう切り返した。

「同僚が何人も殺られたのに本当に行くんですか？」

「何か問題でもあるかねぇ？」

「おまえなら問題ないとは思うが・・・」

「だなぁ、何も問題は起きないだろうさ。」

右と左からそれぞれに返答をもらい、苦笑いを浮かべた後、右前の男からこう切り返された。

「ただきぁ、おまえ何しに行くの？　あんな所へ？」

すると、男は簡潔にこう答えた。

「そうさねぇ、いろいろと実験してみたいこともあることだし、それにあそこはおもしろいしねぇ。実験と物見遊山と休暇を全部やってみようかなぁ～と思ってねぇ。」

「確かに、俺の好きな鉄道も種類多いし、お前さんが好みそうな娯楽にもことかかないなぁ。」

「確かになぁ～。あそこで声優にでもなってのんびり休暇するのも

いいかもなぁ～。」

「そそ、まぁ救いようが無いか、救ってもいいかっていう決裁も上から以来きてるしねぇ。まぁこっちはついでだけどね。」

左の男性は少々あきれたようにこう切り返した。

「本当に思えさん仕事狂やなぁ。ある意味尊敬するわ。」

男も笑いながら、

「まぁ、仕事が趣味だしねぇ。というより少々は仕事してないと落ち着かないんだわさ。」

「本当にあきれるくらい仕事好きやなぁ、お前さんは。」

「でも、それだからこそ、あの方の右腕まで上り詰めたともいえるけどなぁ？」

「だわなぁ。俺もお前も未だにお目通り願えた事皆無だしなぁ？」

すると、見守っていた奥の男は驚いたようにこう返した。

「あれ、そうだっけか？」

「あぁ、用もないし。取り次いでももらえんしなぁ。」

「だわなぁ～。」

この答えにさらに驚いた奥の男性はこう答えた。

「じゃあ、この後会いに行くか。休暇届出さないとだしさ？」

疑問を浮かべた顔で右の男はこう返した。

「あれって、総務に出しとけば問題ないんじゃ？」

「あぁ、良いの良いの。どうせもう遅いから上に直接上げないと承認取れないしさ。」

「あとこの後。一緒に飲みに行く約束もしてるんだわ。だからいいのさ。」

この発言に二人はあきれながらも、少々興味を引かれたようでこう言った。

「う〜ん。せっかく上役に会えるんだし顔売っとくか。」

「そういえば、そうだわなぁ。」

二人はある意味で意気投合し奥に座る男に同行の節を願い出た。

「そういえば、二人は結局どうする？　私はとりあえず休暇届は書けてるんだけどさ？」

「そうさなぁ、あそこもたまにはいいか。」

「だなぁ〜。」

そういった後に二人は机の筆を取り、奥に座る男と同じ行き先へ

行く事に決めた休暇届を書出すのであった。しばらくして、書き終えた二人は、手早く残りの仕事を片付け、各々の机の後ろに設置されたアンティーク調の棚から鞄を取り出し上役の部屋に向かう準備を始めるのであった。ちなみに、、この二人。渡した後の居酒屋への付き合いは固辞したそうな。

こうして、この場所で一緒だった三人は彼の地においてお互いを知らない状態で再開する事になるわけだが、今は奥に座り物事を仕組んだ上役の右腕の男しか何も知らないのであった。

余談だが、休暇届を持ったまま居酒屋に二人が乗り込み手続きが当日朝になったばかりか、処理する時間が足りなかった理由で記憶の継承が不完全になってしまったのは、しばらく後になってから発覚する事実なのであった・・・。

0.1 Prelude（後書き）

プレリュードだけでは困るので、
できれば今週中に本編一話を掲載します。

1.1　ハプニングは突然に　前編（前書き）

なんとか同日にあげれました。
ただ、長くなりそうなので後編に分けます。

1．1　ハプニングは突然に　前編

１．１　ハプニングは突然に　前編

～成田空港　第１ターミナル　出発便案内　午前九時時点～

航空会社：ユナイテッド航空
　定刻：午後六時発
　便名：ＵＡ８８２
行き先：シカゴ（ＯＲＤ）行
　備考：定刻

＊＊＊＊

その日は、毎回の滞在時同様に朝七時に起床・朝食を取った後に、我孫子駅へ親友と共に歩いて三十分ほどかけて駅に到着した。前もってチャージしておいたＳｕｉｃａを使って入場したのであった。

「そっちは、常磐線かい？」

「だなぁ、月曜から会社は休めんわ。」

「確かになぁ。とりあえず、私は成田線だから行くわ。」

数歩歩いた後に思い出してこう言った。

「しかしまぁ、今度来る時こそは我孫子駅名物・唐揚げそばを攻略したいもんだわさ。こないだは大きすぎて想定外だったからねぇ。」

「確かに、初めてであれは厳しい話なぁ。まぁ次があるわな。気長にやればいいさね。」

「だねぇ。どうせ次来るときも我孫子に泊めてもらうつもりだしねぇ。とりあえず、さよならだわな。沼さんの電車来るみたいだしねぇ。」

「おぉ、そうだな。じゃあ、また。」

「ほ〜い。」

そして、私は成田線のホームに降りていき、常磐線ホームの親友に手を振るのであった。

それから十分ほどして、入線してきた成田線・成田行きの電車に乗り込み早四五分。電車は無事成田に定時到着。
十分ほどして来た成田空港行きの電車に乗りさらに十分。
これにて成田空港・第1旅客ターミナル到着。
改札口を出た後は、身分証明書の確認と手荷物検査を通過。
今回利用するのはユナイテッド航空なので一路、南ウイングへ。そして、右方向にあるエレベータに乗って四階国際線出発ロビーへと到着。

そして、私はエレベータを出て左へ向かう。
とにかく左へ向かう
突き当たりに着いたら右に折れ、空港宅配の受け取りカウンターで預入荷物を受け取り、カートに載せるのであった。

※ちなみに、帰国時にここまで持ってくるとＪＡＬＡＢＣさんは百円ほど割り引いてくれますよ。ただし、伝票は手書き要。あと、次回からの割引券の入手もお忘れ無きよう。

（しかしまぁ、さすがに早すぎだねぇ。まだ十時だし・・・）

しばし考えた後・・・

（いつも通りにしますかねぇ・・・）

昔は、隠れスポットとして銀だこが五階にあったのだが経路が二つしかなく行きにくい穴場であった。
しかし、それが災いして閉店してしまったという逸話を持っていたりする。知らない人は来れないのでしょうがないのかもしれないが、未だに残念である。

来た道をまっすぐ引き返し、フードコートへ突入する。
そして、そのまま右手のエレベータで一階上へ。
そのまま右奥を目指して通路を曲がり、突き当たりのファーストフード店に到着するのであった。
ここのフードエリアは座席が店舗共有型なので実質管理者がいないのである。なので、すいてるこの時間に利用させて頂くのであった。

とりあえず、席に着きノートパソコンを起動し、いつも持ち歩いているE－MobileのMiFiを起動し、インターネットをしてチェックインカウンターが開く正午までをのんびり過ごすのであった・・・。

そして、正午にチェックインカウンターへ向かう。
今回は運良くファーストに乗れることになったのでてきぱきと搭乗手続きを開始しましょう。

まずはチェックインカウンターに着くと同時に従業員にパスポートを個人情報が記載されたページを開いて提示する。

成田空港では自動チェックイン機を使うのが一般的だが私は全く使ったことがない。この理由は簡単でシカゴでの乗り継ぎの航空便を同会社なのだが金額の関係上で別に取っているのだ。ただ、これは電話デスクなら発生しない問題である。

実は、別に取らなくても安いチケットを発券できるかららしい。予約設備自体も古くからの物を使っているので実際に使ってみるとオンラインより便利に使えるのである。あと、お気に入りの人を作ると友達づきあいもできるし、好みを覚えてもらえるので二重にお得だったりする。

ただ、あくまでも一例であり時期により違うので見比べてみるのをオススメする。

最近まで、ハワイの日本語デスクに友達がいたのだが転勤になってしまったのでそれからはしょうがなくオンラインで取っているというわけである。

ちなみに、オーバーブッキング時は航空会社直通は最優先扱いされ、次に旅行代理店となる。なので、オンシーズンの混雑便で確実に席がほしい際は航空会社に直接の方が無難ではある。ただ、そう頻繁にオーバーブッキングにならないのが常なのであまり気にしなくてもいいのかもしれないが、私は一度だけそうなった人を見たことがあるのでそれからは余計にそう思っているのだ。

さて、そんな事を思い出しているうちに発券も終了したので通常の手未持つ検査場の左前に見て右前に見える待合エリアを目指す。そして、そこの左正面突き当たりにある受付へ向かうのであった・・・。

「いらっしゃいませ。招待券とパスポートを拝見します。」

私は前もって用意してあった二点を確認しやすいように個人情報ページを開いた状態で渡すのであった。

では、この場所について少し解説しよう。ここは上客用の手荷物検査場である。ここを利用するにはファーストかビジネス（航空会社による）もしくは、全日空のエリート資格が必要である。いつも思うのだが、全日空だけ融通されるのは不愉快だったりする。ちなみに、ユナイテッドでは、ファーストと最上位のグローバルサービスの会員のみ利用可能だ。ただ、小耳に挟んだ話に寄ると使用料はワンコインらしいのでサービスしてくれないかなぁといつも思うのであった。

※さすがに、正確な金額はまずいので省略。

そんな事をしている内に確認を終えていたようである。

「有り難うございました。いってらいしゃいませ。」

「どうも〜。」

そして、そのままネクタイピンやカフスをはずし、ノートパソコンをトレイに載せ、上着や帽子も載せるのであった。

※アメリカほど金属感知器が繊細でないのでベルトは大丈夫であった。もちろん、物に寄ります。

私は、そのまま木製の綺麗な金属探知機をくぐり、衣服を整え、荷物を検査場を後にするのであった。

さて、その後は出国審査である。私は無人審査を登録してあるのでそちらへ向かう。数年使っているが一度も並んだことがない。これが出来てからは入国審査は楽になった。前は三十分以上よく並んだものだが、これが出来た後は最短四十分でゲートから預け荷物受取場に到着するという快挙を成し遂げたものである。ただ、それなりに利用しないと登録できないので要注意である。

普通ならその後はユナイテッドのラウンジに向かうべきであるが私はそちらへは向かわない。これには理由があるのだがそれは後ほど語るとしよう。

そんなこんなで一本道を突き進むこと五分ほど。ゲート七十二が見えてきた。ここの最寄りにあるエスカレータで上へ上がる。そこは全日空ラウンジである。

※実はスターアライアンスメンバーの航空会社なのでどこのラウンジを使うかは自由だったりする。もちろん使用権限が必要なのは当然である。

いつも通りに航空券を差し出し、入場すると同時にシャワールームを予約するのであった。

では、この後は会話を少々。

座席を見つけ、座ってしばらくすると・・・。

「いらっしゃいませ。お飲み物はいかがですか？」

「では、ジンジャエールをライム入りで。」

そうまずはこれである。なんと、一杯目だけ飲み物をついでくれるのである。さすが、全日空である。

ちなみに、競争率の高い全日空なので綺麗床が多いのはある意味でお約束である（笑）

そしてもう一つ実はある。

それは、うどん・そば・丼物が無料で何杯でも食べられるのである。

私はいつも昼と夕食はここなので手慣れた物である。ちなみに、で

きたてなのでそれなりにおいしいのもお約束だ。海外に帰る前の記念的な意味合いでいつも食べるわけである。

そして、それを食べ終わった頃にシャワーが空いたそうなのでそのまま入る。私の場合、フライト前にシャワーを浴びるのにはまってしまい結構頻繁に使っている。

だまされたと思って使ってみるとこれが結構快適なので驚きである。私的に女性陣の感想を聞いてみたいのだが誰かと旅行しないので未だに分からず仕舞である。本当に聞いてみたいものである。レディースアメニティーもあるのに残念である。ちなみに、フライトの一時間より前に入っていないと従業員が呼びに来ることもあるので要注意である。

※このラウンジでは全日空しかアナウンスはされないので湯要注意。また、シャワーはフライト四十分前までしか使用できないことが多いので注意。

＊＊＊＊

~成田空港　第1ターミナル　出発便案内　午後四時半時点~

定刻：午後六時発
航空会社：ユナイテッド航空
便名：UA882
行き先：シカゴ（ORD）行
備考：出国手続中

＊＊＊＊＊

しばし、シャワーを浴びた後に軽食やネットサーフィンを楽しみ、いよいよ五時になった。ふと成田空港のホームページを確認してみると・・・。

＊＊＊＊＊

～成田空港　第1ターミナル　出発便案内　午後五時時点～

　定刻：午後七時発
航空会社：ユナイテッド航空
　便名：UA882
行き先：シカゴ（ORD）行
　備考：時刻変更　（整備遅延）

＊＊＊＊＊

調べたところ、どうもエンジンに問題が見つかって整備をすることにしたらしい。しょうがないのでこのまま待機である。

そして、この後にハプニングが起こるのだが、この時の私はまったく知らないのであった。

１．１　ハプニングは突然に　前編（後書き）

１０人見れば言い方と思ってましたが
２０人以上のアクセス有り難うございます。
うぅ～ん。後編のシナリオどうしようかなぁ～。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3663y/

ある人物の実験と生涯 (仮題)

2011年11月9日09時15分発行